

# 2013 年度 センター試験（本試験） 国語（現代文） 分析

## 全体概況

試験時間 国語全体で 80 分

大問数・解答数	大問数：2 題	解答数：20 問
難易度の変化（対昨年）	難化 やや難化	変化なし やや易化 易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし 減少
出題分野の変化	あり	なし
出題形式の変化	あり	なし
新傾向の問題	あり	なし
<p>総評</p> <p>評論、小説共に昨年に比べるとやや難化したといえる。評論は小林秀雄の昭和30年代後半の文章で、やや読みづらく、そのために、設問が難しく感じられたのではないかと。小説は人物の置かれている立場や心情がつかみにくく、評論と同様、それが設問を難しく感じさせている。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	小林秀雄『鐔（つば）』（「考へるヒント」所収）	50 点	刀の「鐔」を素材に、乱世としての中世における文化のありようについて、随筆調で述べた文章。四つのパートに分かれているが、各パートの間の論理的な結びつきが弱いのと、大量の注の存在によって、読みにくさを感じた受験生も多かったのではないかと。設問のレベルは例年並みであるが、比喻表現の解釈が問われた点と、問六の設問が2010、2011年度のように(1)(2)の二問になった点が特徴的である。
第2問	牧野信一『地球儀』	50 点	前年同様、短編小説の全文が出題された。主人公「私」の祖父の法要の前後三日間が叙述されているが、途中に「私」の書きかけの短編小説が挿入されているためにやや読みづらかったかもしれない。設問自体は、例年通り、本文照合をしっかりとすれば解答できる形になっているが、注意力が足りないと、話を勝手につくってしまう可能性がある。

# 2013年度 センター試験（本試験） 国語（古典） 分析

## 全体概況

試験時間 国語全体で 80 分

大問数・解答数	古文：6題（8問）	漢文：8題（9問）
難易度の変化（対昨年）	古文： 難化      やや難化 漢文： 難化      やや難化	変化なし      やや易化      易化 変化なし      やや易化      易化
問題の分量（対昨年）	古文： 増加 漢文： 増加	変化なし      減少 変化なし      減少
出題作品ジャンルの変化	古文： あり      なし /	漢文： あり      なし
出題形式の変化	古文： あり      なし /	漢文： あり      なし
新傾向の問題	古文： あり      なし /	漢文： あり      なし
<p><b>総評</b>                      古文は、若干文字数が増えたが、設問の形式は昨年度を踏襲しており、過去問題を解いておいた受験生にとっては、違和感なく解答することができたと思われる。                      漢文は、語句の問題で紛らわしい選択肢が見られ、さらに句形重視の解釈・説明問題が1問になった分、内容読解力を問う問題が増えた。受験生にとっては、例年より解答時間がかかり、難しく感じられたと思われる。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第3問	古文『松陰中納言物語』 室町・擬古物語	50点	<p>本文は約 1130 字で、和歌が 3 首詠まれており、問題文の文字数は前年比でやや増えたが、設問形式は前年度と全く同様である。3 段落構成で、場面の展開もつかみ易い。本文には特別難しい語法などは見られず、本文を読み進めながら内容を理解してゆくことは、それほど難しくはなかったであろうと思われる。</p> <p>従来と変わらぬセンター試験の特徴であるが、今年もリード文によってストーリーの「動機（モチーフ）」が明示され、それに続きストーリーが展開してゆく上で、場面ごとの「軸となる箇所」を順次問 1 から問 5 に至るまで問うている。</p> <p>メイン登場人物の「右衛門督」と「下総守の娘」の恋心が和歌で語られ、和歌に込められた心情が設問になっているのも例年通りである。複数の登場人物の行動・心情を追うことが内容理解・正答を導くためのポイントである。</p>
第4問	漢文『張耒集』	50点	<p>昨年の 215 字から 198 字へと 17 字減少した。昨年に引き続き、一段落構成の文章が出題されたが、4 行目から大きく場面が展開しており、これに気づかなければ難解に感じた受験生がいると思われる。文章自体は、再読文字や部分否定・反語形など基本的な知識で読み進めることができる。ジャンルは 1 昨年同様、「随筆」からの出題である。具体的エピソードが筆者にとってどのような意味があるのか考えられたかどうか、問 2・3 の正答を導く鍵である。</p> <p>また、昨年復活した「内容に関する空所補充問題」がなくなり、問 1 も語句の意味を問う問題から 2006 年追試以来出題されていなかった「同じ意味を含む熟語」になった。問 8 も 2011・2012 年で問われていた段落や表現の特徴を問う問題ではなく、2010 年まで頻出であった文章全体における筆者の心情理解の問題に変わった。全体として、5 年以上前の出題形式に戻った感じがある。</p>